

質の高い医薬品副作用報告に向けて



2023年2月23日(木)

15:00~17:30

配信：オンライン（Zoom Webinar配信）

登録用URL: https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_egvhCmHWSxi3sC7CfQMUpg

プログラム

司会：日本医科大学北総病院 薬剤部 岸 大輔

座長：宮城県がんセンター 土屋 雅美先生

事例紹介1（15:00-15:20）

後発医薬品の普及と副作用報告の意義・課題

杏林大学病院薬剤部 若林 進 先生

事例紹介2（15:20-15:40）

医療環境の多様化と副作用報告の意義・課題

東京薬科大学薬学部 益山 光一先生

事例紹介3（15:40-16:00）

ポリファーマシーと副作用報告の意義・課題

国立長寿医療研究センター薬剤部 溝神 文博先生

座長：千葉西総合病院 出雲 貴文先生

講演（16:00-16:20）

迅速な安全性情報収集の必要性への対応

PMDA 高足 葉子先生

特別講演（16:20-17:00）

質の高い副作用報告を実現するための道しるべ

東北大学病院 小原 拓 先生

総合討論（17:00-17:20）

まとめ・閉会 亀田医療大学・亀田総合病院 舟越 亮寛

日病薬病院薬学認定薬剤師制度領域 II-3(1.5単位)（申請中）

※認定単位取得のため、ログイン・ログアウトの履歴管理と確認テストを行います。

※開始後30分以降の入室及び途中退室すると研修単位シールは発行されません。

※ご視聴の際は、録音、録画、画面の写真撮影はご遠慮ください。

※千葉県病院薬剤師会会員以外の方も無料で視聴できます。

共催：千葉県病院薬剤師会、AMED委託研究医薬品等規制調和・評価研究事業 副作用報告研究班

問合せ先：亀田総合病院 TEL：04-7099-2383（担当：舟越）／当日緊急連絡先 070-7097-3213

開催趣旨

医薬関係者による副作用自発報告の意義を 改めて見つめなおす

・後発医薬品の普及への対応

杏林大学病院薬剤部 若林 進 先生

後発医薬品のシェアの増加に伴い、後発医薬品により発生した副作用情報の収集が求められるが、後発医薬品はその性質上、製薬企業からの情報収集には限界があり、後発医薬品の使用に伴う副作用に関しては、医薬関係者による自発報告が重要である。

・医療環境の多様化への対応

東京薬科大学薬学部 益山 光一先生

人口の高齢化に伴い医療が提供される場が病院・医療機関のみならず、地域および在宅へと多様化しており、従来の医療環境の外における医薬品副作用情報等の収集によって、広く地域に根差している医薬関係者によるモニタリング・スクリーニングに基づく自発報告が重要である。

・ポリファーマシーへの対応

国立長寿医療研究センター薬剤部 溝神 文博先生

人口の高齢化などによって、多様な合併症を有する患者に対するポリファーマシーが顕在化している中で、医薬関係者は唯一、客観的かつ横断的な情報収集と副作用報告を可能とする立場にある。

・迅速な安全性情報収集の必要性への対応

PMDA 高足 葉子先生

世界で同時に承認された医薬品または本邦で先行して承認された医薬品等については、安全性プロファイルが十分明らかになっておらず、企業報告と合わせ、医薬関係者からの自発報告が重要である。

また、病院や保険薬局の医薬関係者からの副作用報告が発端となり明らかとなった全く意図しない異物混入事例も発生しており、医薬関係者による迅速な安全性情報の収集が市販後医薬品の安全対策において重要な役割を担っている。